

茨城県の魅力を大幅に向上させた圏央道 渡邊 一夫氏 × 野島 泰久氏

元県土木部長

元圏央道整備推進監兼
竜ヶ崎工事事務所長



いばらきの公共事業を紐解く

この圏央道計画は、1963年(昭和38年)にまとめた「首都圏中央連絡自動車道」は、都心から半径40〜60kmの位置に計画された、延長約300kmの環状の高規格幹線道路です。横濱、厚木、八王子、川越、つくば、成田、木更津などの都市を連絡し、東京圏のクアラインとも一体となって、首都圏の広域的な幹線道路網を形成しているのです。

沿線地域のまちづくりを加速

私の仕事の中で、かなり大きい部分を占めたのが、首都圏中央連絡自動車道(圏央道)沿線整備です。関係道路整備と拠点開発の両方に携わらせていただきました。県内の圏央道インターチェンジは、増玉県から千葉県にかけて、五霞IC、境古河IC、坂東IC、常総IC、つくば中央IC、つくば牛久IC、牛久阿見建設道路計画担当で、



▲坂東ICのアクセス道路である結城坂東線バイパス

野島 泰久(のじま やすひさ) 1964年2月2日生まれ。60歳。87年に入庁して、下水道課に配属された。その後、近年は都市局都市整備課市街地整備室長、境工事事務所長などを務め、2024年3月に圏央道整備推進監兼竜ヶ崎工事事務所長で定年を迎えた。

農振農用地にIC開発

圏央道(首都圏中央連絡自動車道)は、都心から半径40〜60kmの位置に計画された、延長約300kmの環状の高規格幹線道路です。横濱、厚木、八王子、川越、つくば、成田、木更津などの都市を連絡し、東京圏のクアラインとも一体となって、首都圏の広域的な幹線道路網を形成しているのです。

圏央道は、平成29年2月26日に境古河IC〜つくば中央IC間が開通し、県内全区間整備も取り組みました。アウトレットモールの誘致は、本庁都市整備課が交渉の窓口となり、我々事務所のサポートで相手からの進出条件を交渉可能な計画に落とし込む作業をしました。このとき渡邊一夫土木部長(当時)に、阿見東ICからアウトレットモールに直結するアウトレットアクセスの整備について了解をいただけたことで、誘致が一気に進みました。

農振農用地にIC開発

圏央道(首都圏中央連絡自動車道)は、都心から半径40〜60kmの位置に計画された、延長約300kmの環状の高規格幹線道路です。横濱、厚木、八王子、川越、つくば、成田、木更津などの都市を連絡し、東京圏のクアラインとも一体となって、首都圏の広域的な幹線道路網を形成しているのです。

圏央道は、平成29年2月26日に境古河IC〜つくば中央IC間が開通し、県内全区間整備も取り組みました。アウトレットモールの誘致は、本庁都市整備課が交渉の窓口となり、我々事務所のサポートで相手からの進出条件を交渉可能な計画に落とし込む作業をしました。このとき渡邊一夫土木部長(当時)に、阿見東ICからアウトレットモールに直結するアウトレットアクセスの整備について了解をいただけたことで、誘致が一気に進みました。



圏央道により、茨城県の魅力と利便性は大幅に向上したと思います。県内にはすでに全区間2車線が供用されており、現在4車線化が急ピッチで進められております。アクセス道路も着々と整備されており、各地で企業誘致が活発に行われているのです。今回は、この圏央道のお話をさせていただきます。

圏央道は、平成29年2月26日に境古河IC〜つくば中央IC間が開通し、県内全区間整備も取り組みました。アウトレットモールの誘致は、本庁都市整備課が交渉の窓口となり、我々事務所のサポートで相手からの進出条件を交渉可能な計画に落とし込む作業をしました。このとき渡邊一夫土木部長(当時)に、阿見東ICからアウトレットモールに直結するアウトレットアクセスの整備について了解をいただけたことで、誘致が一気に進みました。

茨城の公共・公益事業 歴史をたどり、後世に残す

こまめに実施され、いろいろな質問に丁寧な答え、理解を得ながら進められました。もちろん私も、ほとんど同席しておりました。希望の少ない「ヒシクイ」や「オオタカ」の扱いは、大いに悩まされた。都市計画決定ができたのは、東側が平成6年4月、西側が平成7年3月でした。この時、私は高速道路対策室室長補佐になっていました。

ダイレクトアクセス条件に企業誘致

このとき事業が進められていたのは国道125号現道から国道25号バイパスまでの区間で、隣接して日本新都市開発が開発を進める南平台地区に係る住宅宅地関連公共施設等総合整備事業として、他の圏央道アクセス道路に先行し事業化、用地取得し工事に着手しました。



▲境古河ICのアクセス道路である境岩井バイパス

圏央道は、平成29年2月26日に境古河IC〜つくば中央IC間が開通し、県内全区間整備も取り組みました。アウトレットモールの誘致は、本庁都市整備課が交渉の窓口となり、我々事務所のサポートで相手からの進出条件を交渉可能な計画に落とし込む作業をしました。このとき渡邊一夫土木部長(当時)に、阿見東ICからアウトレットモールに直結するアウトレットアクセスの整備について了解をいただけたことで、誘致が一気に進みました。

カラーなので、読みやすさが定評！



公共も民間も情報量が豊富！

県内業界紙では最安値



- 情報量が豊富
- 活字を大きく、読みやすさを追求
- 1面と最終面が基本カラー
- 事業予算や工事ニュース以外に天気予報や交通取締情報も掲載

茨城県内の建設関連情報を網羅。企業利益につながる発注・計画記事、民間情報ははじめ、国・茨城県・自治体等の予算、人事、工事や委託・役務等の入札情報、企業・団体の事業活動、新技術・新開発情報などキメ細かな生きた最新情報を提供。さらに歴史的な建造物の発掘や建設業に関わった偉人の紹介。建設医療の解説などソフト的な記事も紹介。これまでの業界紙とはスタイルやスタンスが異なる建設業に特化した建設総合紙を発行。企業様の営業活動の情報収集を担う必読紙です。

県内の建設情報をキメ細かく網羅

購読料 月額 **5,500**円(税別)
「電子版」と「Web版」を無料サービス